

「わくわく！いきいき！本や人との出会い」

～図書や資料を活用した言語活動の充実と自ら学ぶ力・伝え合う力の育成～

鳥取市立青谷小学校

1 はじめに

平成19年4月、青谷町内の5校の小学校が段階統合し、本年度は、完全統合2年目である。

人なつっこく、素直で明るく積極的に人と関わっていこうとする児童も多いが、他者とのコミュニケーションが苦手である児童、自分勝手な思いで行動しがちな児童、のんびりして人にな言われないと行動化できない児童も目立っていた。

昨年度は、完全統合初年度ということもあり、人と人とのよりよい関わり合いを身につける「コミュニケーション学習」を研究の柱として、各学年5～6題材のプログラムに取り組んだ。また、学級仲間づくりに力を入れるとともに、学校行事や縦割り班活動も仲間づくりの視点で充実に努めた。その結果、本年度は、全体的に落ち着いた学校生活を過ごしており、個々の生活習慣などの課題が残る児童もあるが、学習や運動などに目あてを持って頑張る児童がたくさん育ちつつあると感じている。児童の「学校は楽しいですか」という自己評価項目で98%が肯定的評価であり、昨年度よりもポイントが高い学年が多く、前向きな気持ちで学校生活を送ろうとしていることが感じられる。



2 研究のねらい

現在の知識基盤社会を生き抜くためには、多様な情報を上手に取捨選択し整理していく能力が必要とされている。その手段の一つとして、新学習指導要領でも、言語活動の重視と合わせて図書館活用の必要性、有用性が指摘されている。

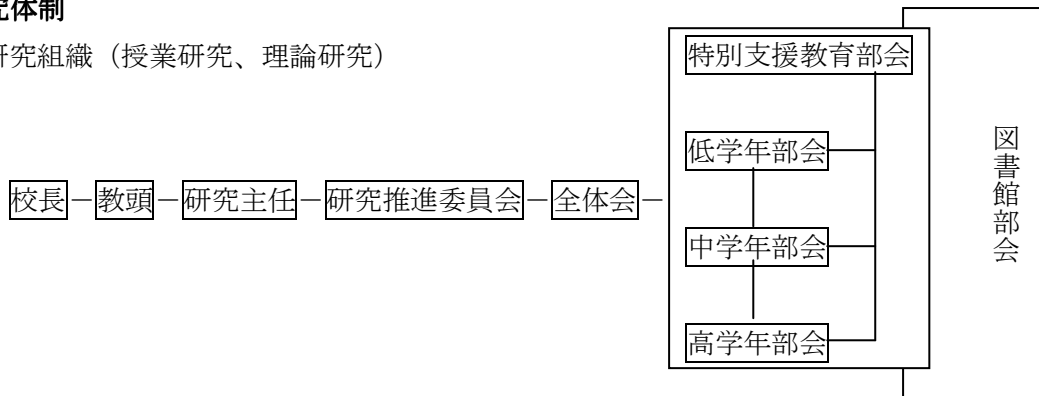
本校の学校教育目標、めざす児童像の「知・徳・体のバランスのとれた『いきいき青谷っ子』」を育成するために、そのアプローチの幅を豊かにする手段の一つとして、図書館活用の推進は、大変有効であると考えた。知的活動を促進し、活用型、探究型の学びを展開する拠点として学校図書館を位置付けることで、自発的・主体的な学習活動が展開されるようになり、子どもたちの生き生きと学ぶ姿となって、変化の激しい現代社会の中においても生涯学び続けていくことのできる力が身につき、本校の目指す「いきいき青谷っ子」の育成へとつながるものと考えたのである。

そこで、研究テーマを「わくわく！いきいき！本や人との出会い ～図書や資料を活用した言語活動の充実と自ら学ぶ力・伝え合う力の育成～」とし、学校を挙げて図書館活用に努め、様々な教科領域で言語活動の充実を図ることにした。

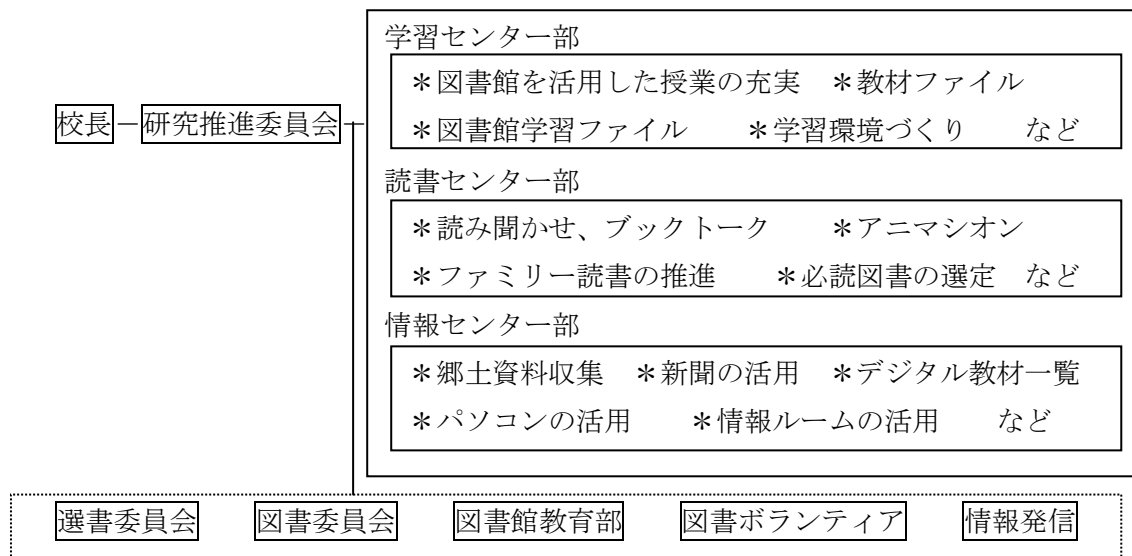
図書ボランティアの読み聞かせが10年間続いており、本が好きな子どもたちが育っていること、余裕教室の増築棟を生かした図書館整備ができることを本校の強みにしたいものである。

3 研究体制

(1) 研究組織（授業研究、理論研究）



(2) 図書館整備計画のための組織



*全職員で研究、環境整備にあたることのできるような組織の構築

(3) 図書や資料を活用する教科

○図書館活用の広がりや可能性について授業研究会で検証するため、多教科・領域において授業研究に取り組む。

(4) 重点的に取り組むこと

- 図書館を活用した授業実践・理論研究
- 外部講師を招いての理論研究、演習
- 学校図書館全体計画の作成
- 図書館活用年間指導計画の作成
- 学年別学び方指導年間計画の作成
- 読書センターとしての様々な行事の実施
- 情報・メディアを活用する学び方の指導体系表の作成
- 環境整備

4 研究の実際

(1) 研究内容

① 理論研究

県教育センタースーパーバイザーの高鷲先生と大平先生に3度来校いただき、理論研修・教材研究演習を行った。



高鷲忠美先生の講義

八洲学園大学 高鷲忠美教授 (堺市教育委員会委員 大平睦美先生)
5月25日(水) 講義「新学習指導要領と図書館の活用、 図書館を活用した学習の工夫について」
8月5日(金) 高鷲先生の講義(前回の続きとして) 教材研究(演習)
11月9日(水) 参観日 指導助言

② 授業研究

参観日に全学級が図書館を活用した学習を習を公開し、高鷲先生・大平先生の指導を受けた。

③ 研究授業 各学級が外部講師を招き各1回ずつ授業

研究会を実施した。(内4回は全体授業研)

<研究授業実践一覧>

月	学年・組	授業者	教科・単元	指導助言者
6月 1日	2年1組 (全体研)	地原裕子 原田奈津子	国語 だいすき!がまくんとかえる くん 中心教材「お手紙」	小谷喜美子教頭 (宝木小)
6月 8日	4年1組	前田尚美 地原裕子	総合 みんなにやさしいユニバーサル デザイン	森本直子係長 (東部教育局)
〃	6年1組	江谷成史	外国語 行ってみたい国を紹介しよう	安本雅紀指導主事 (市教委)
7月 13日	4年2組 (全体研)	諸家 馨 地原裕子	国語 ことわざブック 「4-2竹馬の友ブック」を 作ろう	笠見隆志指導主事 (県教育センター)
7月 20日	1年1組	名原博子 地原裕子	国語 夏休み、本と出会おう 「ほんはともだち」	小谷喜美子教頭 (宝木小)
〃	6年2組	長谷川理恵 地原裕子	音楽 世界の音楽に親しもう	小谷喜美子教頭 (宝木小)
7月 19日	ようこそ	浅尾桂子 小竹宏明	自立 聞き方名人になろう	中島康太指導主事 (県教育センター)
9月 7日	5年2組 (全体研)	西本 晶	社会 水産業のさかんな静岡県	田中精夫校長 (用瀬小)
9月 28日	2年2組	中澤美佳 地原裕子	国語 青谷町の民話のおもしろさを つたえよう	半田雅人指導主事 (県教委小中学校課)
〃	3年2組	三谷一孝	社会 店ではたらく人	半田雅人指導主事 (県教委小中学校課)
9月 29日	5年1組	山根裕子	図工 刷り重ねて表そう～ほり進み 版画で～「青谷上地寺地遺跡」	本部和彦教頭 (岩倉小)
10月 5日	しおかぜ (全体研)	岸 純子 池邊慎一	自立 はなまるトロフィーをおくろ う!	児島陽子教諭 (附属特別支援学校)
10月 19日	3年1組	泉 政則 地原裕子	国語 「はたらく犬 もの知り事典」 を作ろう	岡本修典指導主事 (東部教育局)
11月 1日	1年2組	前田静香 地原裕子	生活 あきとふれあおう 「きれいだね おもしろいね」	小谷喜美子教頭 (宝木小)

<研究授業（単元）での図書の活用の様子>

- ・情報リテラシー表を活用して・・・索引の扱い方（1年1組：生活、4年1組：総合）
- ・研究テーマの決め方・・・（3年1組：国語）
- ・情報カードの活用・・・（4年2組：国語、3年1組国語）
- ・映像資料の活用・・・（5年2組：社会、6年2組：音楽）
- ・郷土資料の活用・・・（2年2組：国語、5年1組：図工）
- ・データ、資料、地図の活用（3年2組：社会）
- ・読書に親しむ、読書を広げる・・・（1年1組：国語、2年1組：国語）
- ・自主学习に図書を活用する・・・（3年2組：社会）



5年2組 社会



6年2組 音楽



3年1組 国語



1年2組 生活科



3年2組 社会



4年2組 国語

○
そ

の他の授業実践

市教委計画訪問日、11月参観日においても、全学級が図書館を活用した授業を行い、指導主事の先生や高鷲先生・大平先生に指導を受けることができた。略案を書いて授業に臨んだので、研究授業と合わせると、各教科でかなりの授業実践を積み上げることができた。

国語・・・16回	総合・・・2回	社会・・・5回	外国語・・・3回
音楽・・・1回	図工・・・1回	生活・・・4回	自立活動・・・5回

もちろん、これ以外にも積極的に図書館を活用した学習を行った学級も多く、司書教諭の利用指導も計画的に実施した。

(2) 授業実践を通して学んだこと

- 指導者（担任）が、まず学校図書館へ足を運び、教材研究をすることが大切である。
- あくまで「教科のねらいを達成するため」の手段としての図書の活用が大切である。
- 活用した図書リストの作成、蓄積が大切である。
- デジタル教材等の効果的な活用が必要である。

*図書館を活用しなくても、授業は成立するのであるが、図書を利用することによって、学習に「厚み」が出て、より豊かなものになると活用する意味や価値がある。

- ・児童へ実施した「本大好きアンケート」の結果から、図書館で学習したり、本や資料を活用して学習したりすることが、楽しいと回答している児童が多数ある



授業研究会風景

(3) 図書館を活用した学習の**教職員の『授業観』**の変容について

成果

- 何をどうすればよいのか分からず、手さぐりの状態だったが、「図書館活用」のイメージが持てるようになってきている。
- 「図書館の本を使った授業をしないといけない!」と思っていたが、資料やまとめたもの（情報）の活用でもよいということで、幅広く学習が展開できると感じた。気持ちも少し楽になった。
- 「読書」という観点だけの授業ではなく、いろいろな教科で活用できることが分かった。
- 児童に必要な基本的な学びの力（テーマの見つけ方、感想の書き方、情報カードの書き方など）を積み重ねることの大切さを感じる。
- 一人で授業を作り上げるのではなく、司書・司書教諭の協力を得るようにしていくと、よりよい授業ができることを実感した。
- 大型絵本、教材提示装置での学習等、教具の工夫の幅が広がることは、子どもに興味を持たせる上でも、正しい知識を持たせる上でも、とても効果があった。
- 教科書の内容だけでなく、プラス「本（図書）」で理解を深めたり、学習を振り返ったりする様子が、自主学习などに見られるようになった。
- 情報活用能力の育成に対する意識が高まった。

課題

- 活用術の引き出しがまだ少ないので、研修を重ねていきたい。
- 教科や領域で、まだまだ活用（実践）できる学習が予想されるが、取り組めていないもどかしさがある。

(4) その他の成果

- 図書館の使い方（分類表、マナー等）について改めて確認し、学習できた。
- 図書館学習ファイルを作成し、テーマの見つけ方、感想の書き方、情報カードの書き方など、図書館を活用して学習していく上で大切なことを、司書教諭から計画的に学んだ。



4年1組 総合的な学習の時間



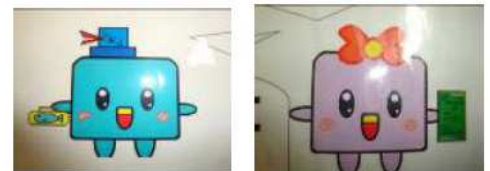
1年1組 国語

5 ゆめいろ図書館の活動実践

「ゆめいろ図書館」の名称は、昨年度、児童に公募し決定した。図書館にあるいろいろな部屋を、総合的にワークスペースとして活用している。

<読書センター>としての取り組み

- ゆめいろ図書館の各教室の目的に応じた運営、環境整備
- 朝の読書
- ファミリー読書
- 「よんでほしいな」（各学年の推薦図書）
- 年間多読賞
- 読書集会「図書館祭り」
- 読書感想文・読書感想画
- 図書委員会の活動
- 担任の先生の読み聞かせ
- 図書ボランティア「しゃぼんだまの会」の活動
(朝の読み聞かせ、休日のお話会、様々な掲示物の作成)



児童が考案したキャラクター



その気にさせたい環境整備



図書館祭りのロールシアター



図書館祭りのランキング発表

<学習・情報センター>としての取り組み

- 情報ルームの資料の整理、啓発の掲示
- 各部屋への情報機器の設置
- パソコンの使い方等、リテラシー表の作成
- 新聞の切り抜きの情報ファイルの作成
- 図書館便り
- HP 上での情報公開



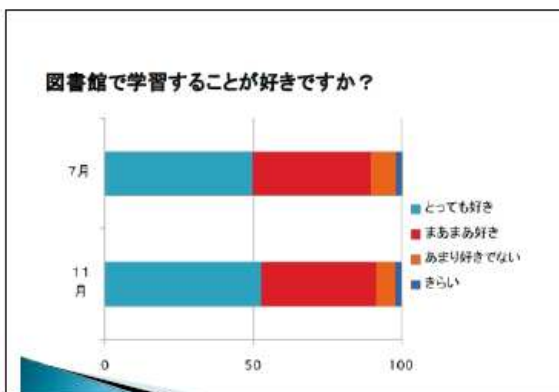
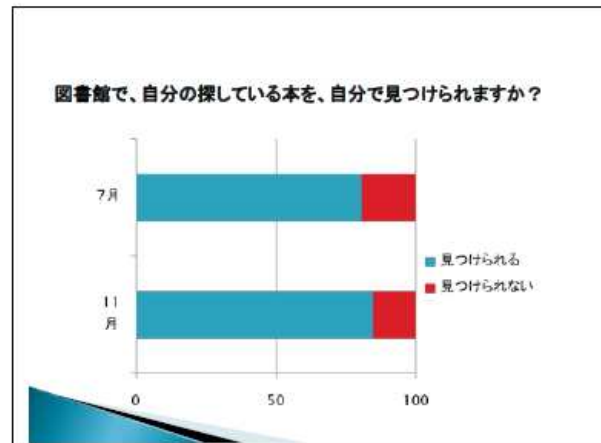
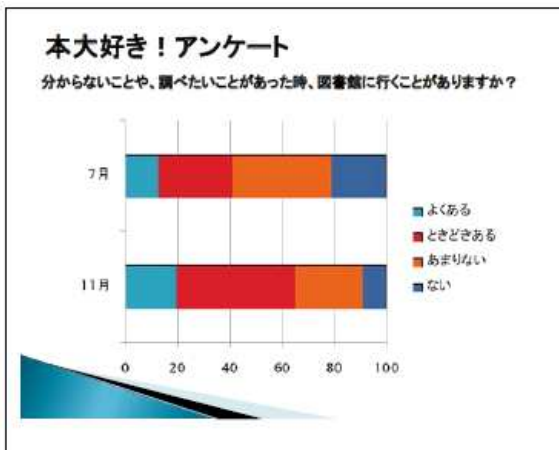
6 成果と課題

現時点で成果と思われること

- 職員が目が図書館へ向くようになり、通う機会も増えた。活用力の育成に欠かせない言語活動の充実に対する教師自身の自覚が高まった。
- 話すことや聞くことが中心、教室で発問により導かれて学習するというスタイルが、多様な言語活動を工夫した授業へ変わりつつある。
- 情報リテラシーへの関心が高まった。
- 図書を活用した授業で、学習に広がりを持てた。
- 図書館や特別教室を使った、アクティブな学習が増えた。
- 教師が、図書館を使おうと思うようになった。
- 担任同士、司書、司書教諭と話し合っって本を選んだり集めたりするようになった。
- 国語科のみならず、幅広い教科等で図書館や各種資料を活用していく実践の積み上げができてきた。
- 休憩時間などに、子どもたちが進んで図書館に行く姿が見られるようになった。
- 子どもたちと本のことで話をするようになった。(先生、この本おもしろいよ〜とか。)
- 子どもたちが、以前より読書を好むようになった。貸し出し冊数が伸びている。
- 家庭学習への図書利用が増えた。関連図書の積極的な利用が増えた。
- 分からないことがあったら、図書や事典等を使って調べようとする態度が育ってきた。
- 学習に活用したり、読書に親しんだりできる環境がかなり整備された。

子どもたちにどういった力がついてきたか

- 資料を探し、調べる活動のステップが、少しずつ身についてきている。特に図書館に親しみ、どこに行けば必要な本があるか、先生や友達に尋ねなくても知っている子が増えた。
- 資料活用の力や引用するがついてきている。
- 分からないことは、自分で調べるという考えや態度が身についてきている。
- 図書に対する関心や、じっくりと本を読む力（長い文でも読もうとする姿）がついてきている。
- 図書館に通って本を借りるという習慣がついてきた。
- 主体的に学習に取り組もうとする意欲が見られるようになった。
- まだ、どういった力がついているか、よく分からない。



さらに育てていきたい子どもの力

- 自ら課題を見つけ、各種図書資料で積極的に調べ、解決していこうとする力
- 解決するための方法を考える力
- 説明文の読解力（要点、要約など）
- 複数の情報から、自分に必要な調べたい情報を取り出し、比較し、まとめる力。最終的には、自分の意見を持ち、それを伝える力
- 学習に関連する本・資料を自ら見つけてくる力
- 資料を活用して調べたことを話し合う力・伝え合う力・(受けて、返すなど)・説明する力
- 本からたくさんの情報を得て豊かな心になっていくような、本を読むことが楽しいと思える力

- 学習の中で、一人で読んで調べることができる力
- 自然に図書館へ足を運び、継続的に読書をしていく態度や習慣
- 選書する力
- 図書館や本を通して、興味・関心を広げる力
- じっくりと続けて読む力

今後の課題

- 研究主題にある「伝え合う力」についてどんな風に、どういう力をつけていくのかということの研究
- 「読み取る力」を地道につけていくということ（調べ活動で「自力」という時に困難を感じる。）
- 情報リテラシーの、その学年でつけておきたい力をきちんとつけておくこと
- 誰がやっても同質の授業が提供できるように、実践したことを共通に残していく方法を考えること
- 読書冊数だけでなく、読んでいる本の質を考えていくこと
- 環境整備（情報機器、インフォメーションファイル、パスファインダーなど）
- 理想とする児童像に向けて、どんなことが必要なかをゆっくりと話す時間。向かう方向をみんなでも話し合い、みんなでも決めていくということ
- 学校司書を常勤にするようにインフラを整えること

スーパーバイザーからのアドバイス

<学習について>

- 「テーマを決める」という学習について、もっと積み上げていく必要がある。
- メディアのもっと有効な使い方の研修を重ねる必要がある。

<環境整備について>

- 検索ツールをもっと整備すべきである。
- 図書館に、情報データをファイリングしてストックしていくことが必要である。



7 おわりに

本年度、「図書館活用を研究テーマにして授業するって、一体何をどうしたらいいの!？」からスタートした本校の研究実践である。「図書館を活用する」ということは、とても有効そうであるが、「一体どんな取り組み方があるのか?」「何をするのが活用なのか?」「一体どんな力がつくのか?」という全くのゼロベース、或いは疑問符のつくマイナス的な所からの出発であった。また、子どもには「本を借りにいきなさい。」とは声かけするも、自らはなかなか図書館へ足を運ぶことが少なかったという教職員もあり、学習への活用という点においても個人差があったり、単発的であったりといった状況が実態であった。

スーパーバイザーとしてご指導いただいた高鷲先生や、大平先生から教わった一番のことは、自分たちのそういう姿(一番知らないのは自分たち)を認識することの大切さである。図書を活用することで授業がより豊かになるということを目指し、何より「図書館の活用の研究とは、一体どれくらいの可能性があるのだろう!？」と自分が楽しみながら研究していくことの大切さを学んだ。

そして、授業実践をしたり、環境を整備したりと研究を重ねる中で、図書館活用の授業作りに新たな可能性を見つけることができ、授業観に大きな変容が見られたことが、一番の成果である。そして、やや遠い存在であった図書館が、少しずつ身近な存在へと変わってきているように感じている。

研究を推進することによって、課題がたくさん見えてきたことも成果の一つとして捉えてもよいかもしれない。1年間の成果と課題をきちんと整理し、取り組みを深めていくための優先順位を明確にして、話し合いの時間の確保等、困難な点もあるが、全職員体制で推進していくことが大切である。

特に、研究主題にある「伝え合う力」を研究するというところまで至っていないことが、課題であると感じている。調べる力、まとめる力などもまだまだ積み上げる実践が必要であるが、この「伝え合う」ということについても、もっと研究の視点を当てていきたい。

図書館を活用した学習を積み上げていく中で、資料収集・情報整理等、学校図書館司書との連携を深め、多大な協力のもと実現した授業実践が多い。専門的な知識から良きアドバイス等も受け、本や資料等、フットワークよくそろえてもらい、大変効率が良かった。そして、ただ頼むだけでなく、授業者も授業の明確な意図を伝えたり、図書館と一緒に書架を見ながら準備したりすることがとても大切であると感じることができた。図書館活用教育を推進し、本や資料を授業でより効果的に活用していくには、学校図書館司書の勤務時間数の確保・保障等も大変重要であるということも、同時に認識した。このことは、研究に取り組んで明らかになったこととして、発信していくことの重要性を感じている。学校の内部で話しただけではなかなか改善されにくい人的、物的な環境整備も、その必要性を訴えていくことが大切だと考えている。

研究を始めて1年であるが、学習の幅を広げる手段の一つとして、図書館にスポットライトが当たったということは、本校の教育にとって重要な第一歩であったと思う。